

タオル帽子を友愛病院へ 盛岡二高 家庭クラブ員の手作り

県立盛岡二高の家庭クラブ(高橋委員長)に所属する生徒が手作りしたタオル帽子50個が17日、盛岡市永井の盛岡友愛病院(佐々木



達哉院長)に寄贈されは「患者さんに一日も族の元に戻ってほしい。高橋委員長(2年)早く元気になって、家と心を込めた」と思い

盛岡二高家庭クラブの高橋委員長(中央)らが、タオル帽子を盛岡友愛病院に寄贈した

を語り、タオル帽子を同院の化学療法室の松田知江利看護師らに手渡した。

タオル帽子は、抗がん剤を含む化学治療などに起因する脱毛に悩む患者のための帽子。岩手ホスピスの会(川守田裕司代表)が、ボランティアの協力を得て手作りし全国の病院に寄贈している。

盛岡二高では2017年度から活動に参加し、完成したタオル帽子は毎年盛岡友愛病院に贈っている。3年目となる今年も9月18日に製作講習会を開催。1年生1クラスが岩手ホスピスの会のメンバーの指導を受け、思いを込めたタオル帽子を製作した。

贈呈式で佐々木院長は「不安の中にある患者さんにとって、一番うれしいのは氣遣ってくれる人がいること。一針一針に心を込めて作ってくださったタオル帽子をかぶった患者さんは、心も包まれた気持ちになるだろう」と感謝を述べた。

高橋委員長は「岩手ホスピスの会の方の指導のおかげで、丁寧な仕上がりにできた。使ってくれる人に笑顔になってもらえるよう一針一針に心を込めた。これからも、顔の見えない誰かを支えられる活動をしていきたい」と話した。